2023年度東京海洋大学海洋生命科学部食品生産科学科
編入学試験「小論文」問題用紙（1/2）

※解答は解答用紙の所定の欄に記入すること
問題用紙は持ち帰らないこと

受験番号	氏　　名

第1問

図1は生鮮魚介類の1世帯当たり年間支出金額・購入量の推移を示したものである。これについて，以下の問に答えなさい。それぞれの解答は解答欄に収まる範囲で記載すること。

問1　図1から生鮮魚介類の1世帯当たり購入量にどのような変化が起こっているか，その理由とともに説明しなさい。

問2　図1から購入量が大きく変化しているのに対して，年間支出金額の変化は比較的小さいことがわかる。この理由を説明しなさい。

問3　図1は生鮮魚介類の1世帯当たり年間支出金額・購入量の推移であるが，水産加工品を含む調理食品の1世帯当たり年間支出金額・購入量はこの間どのように変化したと考えられるか。その理由とともに述べなさい。

問4　ポストコロナに向けて魚食を普及するにはどのようにすればいいか，あなたの考えを述べなさい。

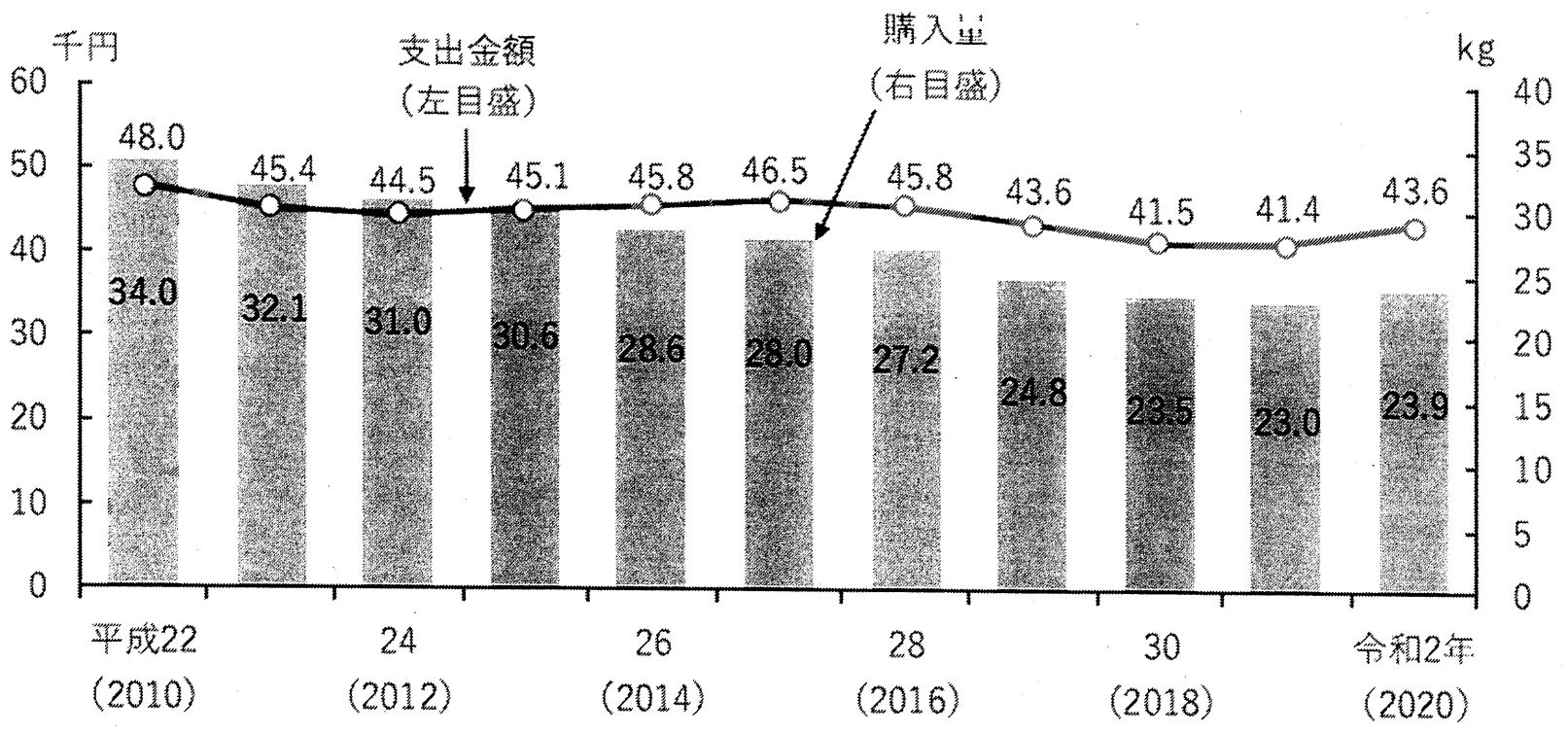

図1　生鮮魚介類の1世帯当たり年間支出金額・購入量の推移（令和2年度 水産白書より抜粋）

資料：総務省「家計調査」

注：対象は2人以上の世帯

2023年度東京海洋大学海洋生命科学部食品生産科学科
編入学試験「小論文」問題用紙（2/2）

※解答は解答用紙の所定の欄に記入すること
問題用紙は持ち帰らないこと

受験番号	氏　　名

第２問　次の文章を読み，問１から問３に答えなさい。

江戸時代に生まれた「磯猟（いそりょう）は地付根付（じつきねつき）次第なり，沖は入会（いりあい）」という現代の漁業制度につながる思想は，海浜の地付漁場については，周辺漁村が管理する「総有」※1とする一方，外海については原則自由な漁場の利用を認めるもので，農村とは異なる①漁村特有の共同体原理が影響しているものと考えられます。

例えば，江戸時代の漁村では，村落又は村落の有力者である長百姓※2が漁場，入漁者，漁具や漁法，漁労日数の限定，漁場の輪番使用などについてルールを定め，共同体で漁場を管理・使用することが行われていたといわれています。

現在の漁業法でも，地先の共同漁業権の管理を地元の漁業協同組合に委ね，漁業協同組合が②漁業権行使規則を定め，漁業を営む権利を有する者の資格を定めたり，漁具・漁法，操業期間の制限を設けるなどの方法により漁場の管理を行っています。（平成21年度水産白書より抜粋，一部改変）

※1　総有：共有の一形態。物の管理・処分などの権限は団体自体に属し，各団体員はその物を使用・収益する権限を有するにとどまる。

※2　長百姓（おさびゃくしょう）：一般には江戸時代，村落上層の有力な農民。単なる大高持の農民をさすのではなく，新村落の開発に功のあった草分百姓のような，村と特に関係の深い農民をさすことが多い。

問１　下線部①の「漁村特有の共同体原理」が生まれる要因となる漁業の特徴をあげ，農業との違いについて述べなさい。

問２　漁場管理の思想は，当時の漁法が効率的なものではなく，漁獲量もさほど多くなかったことから，対立が起こらないように生じたものと考えられる。現在の技術では，当時よりも効率的な漁業が可能となりつつある。下線部②以外にあなたが考える漁業管理の方法について現在の漁法を踏まえて説明しなさい。

問３　漁場管理は海の保全に不可欠であり，消費者である我々の食卓に上がる魚の価格や種類にも影響する。現在漁場管理は多くの漁師や漁業協同組合が主体となって行われているが，消費者側から出来る海の保全の方法として考えられる方法を理由とともに述べなさい。